

魅力と活気にあふれるまちづくり 中心市街地活性化への取組み

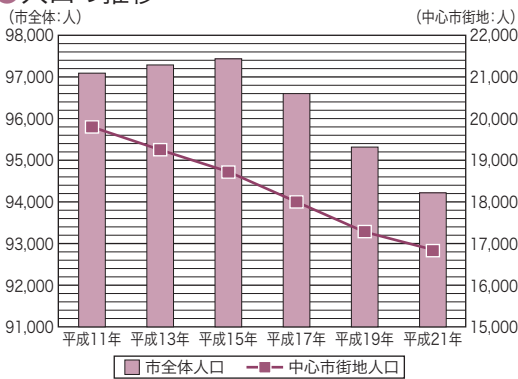
今を生きる私たちが伝えていかなければ先人から守られてきた文化は未来へ受け継がれることはないでしょう



昭和30年代の鍛冶橋付近



●人口の推移

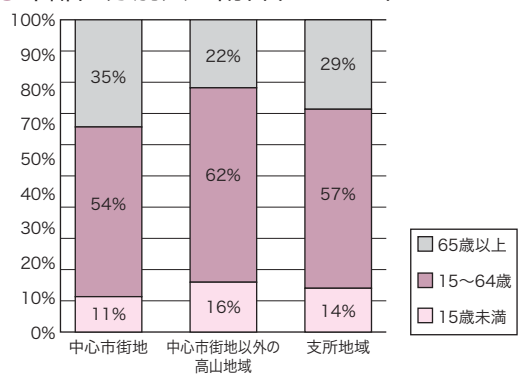


こうした歴史や文化を併せ持つ高山の中心市街地が、将来を非常に憂うとする状況となっていることをご存知でしょうか。
中心市街地の人口は10年前に比べ約3,000人、15%も減少(市全体では3%減少)。この数字は、市

「高山祭」の維持も困難に!?

まで破却されましたが、東山寺院群、商人町、街道はそのまま残され、その後も旦那衆と呼ばれる商人を中心に発展を遂げ、現在に至っています。
今も城下町の地割や道路は、ほぼ400年前のままの形で残っています。

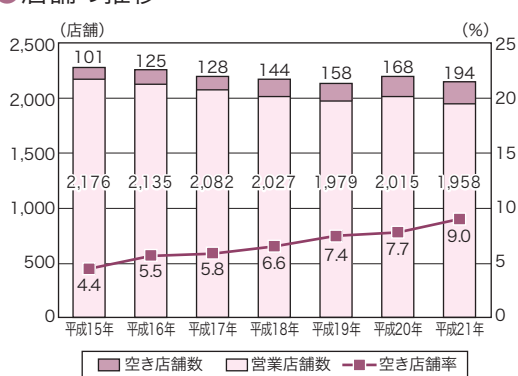
●年齢区分別人口割合(H21.10.1)



主な原因には、車社会の進展や核家族化など生活様式の多様化により、郊外へと転出が進んだことが考えられています。これにさらに追い打ちをかけるのが急速な高齢化です。市全体の高齢化率が約26%であるのに対し、中心市街地のそれは35%と大きく上回る状況となっています。今後、高齢者世帯や単身高齢者世帯の増加が予想され、町内会などのコミュニティ

町村合併前の宮村(2659人)の人口以上の人が高山市の中心部からいなくなったこととなります。人口の減少に伴い、一戸建て空き家は約170戸、集合住宅では約450戸が空き室となっています。

●店舗の推移



多くの人々が訪れるにぎわいの影で、まちなかは疲弊してきており、町並景観の崩壊や、産業の衰退など市民生活全体に影響を及ぼすことのないよう活性化に向けての取組みが急務となっています。

活動ができるのか、さらには貴重な財産である「高山祭」の維持ができなくなる恐れすらあります。
一方、中心市街地の商業分野も、空き店舗は最近5年余りで約100店舗から約200店舗に倍増。従業者数、年間商品販売額ともに減少傾向にあります。